

たかお治久^{はる ひさ} 後援会 会報 NO.14

■発行日／平成26年5月 ■編集発行／鷹尾治久後援会 ■後援会連絡所／カネカ労組高砂支部内

いつもたいへんお世話になっております。高砂市議会議員のたかお治久です。

何かとご多用とは思いますが、是非ご一読ください。

宜しくお願いします。

1.私の伝えたいこと(3月定例議会での一般質問)

「4つの提案」

～高砂市で生活し、働く者として～

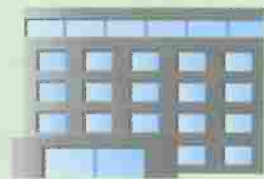
私たちが住み、そして働く高砂市。私たちはこの高砂市に税金を納め、公的サービスを受けています。この公的サービスについては、出来る限り市民ニーズに合う形に変えていくべきであるというのが私の考えです。道路整備やハコモノ建設、災害対策、制度改革などの大きな事業がある一方で、日々の生活のなかで何気なく受け取っているサービスも数多く存在します。

そして私たちが生活していく中で快適感や幸福感を実感できるのは、私たちの日常的な生活のニーズがより細やかに対応された社会の仕組みであるように感じています。そこで、私は**行政サービスの質は市民一人ひとりの意識、声で変わると信じ**、平成25年度3月定例議会において、以下の通り4つの提案をさせて頂きました。是非ご一読下さい。

①通勤・通学時の
自転車の安全の確保!



②公共施設は働く者が
平日の夜に行ける運営に!



③行政の作成する資料は
市民にもっとわかりやすく!



④高砂市の課題発見には
市外転出者にこそ
アンケートを!



提案 1 通勤・通学時の自転車の安全の確保！

～法華山谷川と明姫幹線の交差する所、ホントに危険です～

法華山谷川東側及び竜山橋と明姫幹線北側の道路状況につき、私自身が毎日使用し危険を感じていることから、市長・副市長・当該部長は自らが自転車に乗ってその危険度を認識して頂いた上で、期限を決めた改善を進めるよう提案しました。

行政答弁) ⇒自転車に乗って通行してはいないが最近歩いてみた。

県の河川管理区域ではあるが、河川の安全性を維持した上での拡幅の提案等を検討する。



解説) 私は毎日、阿弥陀町魚橋の自宅から会社(高砂町)へ、そして市役所へと市内を自転車で移動しています。昨今の環境や渋滞解消への配慮、またコスト意識の浸透などで市内は自転車利用者がかなり多くなってきている様に思います。通勤・通学の危険箇所は必ず何らかの対策をとっていかねばならないと考えます。その為には、自ら気が付いたり皆様のご指摘で発見した危険箇所を是非とも、改善の方向に導いていきたいと考えています。

提案 2 公共施設は働く者が平日の夜に行ける運営に!

～行政サービスの多くが平日の昼間、おかしくないですか?～

「勤労者施策」という名目で実施されている以下の企画内容。おかしくないですか?

- i) ヨガ教室は月4回の内3回が平日の昼。
- ii) 華道教室は平日昼のみ



私も行きたいけど、平日はお仕事だし…。働いている私たちには関係ないの?

他にも、高砂市の図書館の閉館時間は18時。働いている人は仕事帰りに行けません。

行政答弁) ⇒図書館については、18時以降のニーズはないと認識している。また文化教室等は勤

労者とその家族の福利厚生を目的に実施しているが、今後もアンケートなどでニーズを把握し対応していきたい。

解説) 例を挙げたのは3点ですが、こういった施策の他、子どもの検診や育児教室、食育教室も全て平日昼間のみです。社会は子育てをしやすい環境を整えようとしている時代にこの状態です。お医者様の事情等ニーズを反映しようとしても出来ないことがあるのはやむを得ないと思いますが、そこまでニーズを捉えて運営についての検討を重ねたのか？これこそが今後公共サービスを担う者が行っていないといけないスタンスだと考えています。また一方、市民も諦めることなく、強く改善を求め、働く者が受けやすい運用に変更していくことが大切と考えています。

提案 3 行政の作成する資料は市民にもっと分かりやすく!

i) 当該年度に実施しようとする行政施策が一覧になった冊子(『事業の概要』)の目標欄に事業完了時期を記載しては?

行政答弁) ⇒この『事業の概要』は当該年度に行うことを記したものである。

ii) 毎年年度終了後に作成され各公民館等においてある冊子(『事務報告書』)掲載の数字は単年度のものではなく、経時変化がわかる形にした方が良いのでは?

行政答弁) ⇒記録として残しているものであるが、今後検討はしていきたい。

解説) 行政資料ですから、派手さや見栄えはそれ程必要とは思いません。しかし何の目的で誰の為に作っているのかを考えた時、上記の2冊子(『事業の概要』『事務報告書』)は行政が時間と税金を使って作成している割には、まだまだ改善の余地があると思っています。

実際に市内の各公民館に置かれている『事務報告書』を見て頂ければわかりますが、例えば「総合体育館利用状況」と称して月別・種目別等に人数が記載された一覧表。この表には過去の数字などは全くなく、単年度の数字だけです。過去から増えたのか減ったのか?稼働率は?目標に対しては?等は全くわかりません。誰に何を伝えようとしているのか?行政の保管データであるならばわざわざ分厚い冊子にする必要もありません。ここには『事務報告書』とは「こんなもんだ」という意識が定着し、市民目線でのよりわかりやすい意味のある資料にしようとの意図がなくなってしまっている様に思います。民間で働くものがこれを提示されれば、この冊子は何を言いたいのか?と直ぐに疑問を感じると思います。

これからの時代、税金を使った施策がどれ程に意図した方向に結果を出せたのか、市民に明示できる資料が必要です。それだけに意図に沿ったよりわかりやすい資料作成を求めていきたいと考えています。

～お願い～是非一度、公民館等で『事務報告書』等をご覧ください。作っている側では見えないわかりにくさを声にして、より良い行政資料にしていきたいものです。

提案 4 高砂市の課題発見には、市外転出者にこそアンケートを!

～何故高砂を出て行ったの?それが課題～

高砂市に必要な魅力や「住みたい」と思って頂ける為には何が必要なのか?このテーマの解決には高砂市外へ転居された方の声にこそ耳を傾けアンケートを実施した方が良いのではないかと?

行政答弁) ⇒他市でも実施している所があり、研究の上検討したい。

～住む人・働く人の幸福感を高める為に～

日本はかつて人類が経験したことのない人口減少社会を迎えます。そんな将来に私たちはどう生きていくべきか？またどういう税金の使い方で公共サービスを受けるべきか？

時代は明らかに、これまでとは違ってきています。人口減少は即ち、税金を払う人の数も減ることであり、これまでと同等の公共サービスを楽しむためには、一人一人が更に負担を増やしていかなければなりません。

しかしそんな流れにも抵抗感があります。理屈で分かってもいざ財布のひもを緩め、「公共サービスの為にもっと税金を払いますよ」ということに納得のいく人はそういないのではないのでしょうか？

そこで必ず出てくるのが「選択と集中」や「無駄の排除」ということなのですが、最も重要なのは“どうなりたい、どうしたい”（即ち高砂市の将来像）の為の「選択と集中」や「無駄の排除」であるのか、です。

本来、私が市議会議員として取り組まなければならないのは、以下の様に考えます。

- ① 高砂市の“夢あり誇りの持てる将来像”を明確にする。
- ② その制約となる財政的展望等を示す。
- ③ ①と②の狭間で現実をどう変えるか？市民と共に検討し結論を導き出していく。

その高砂市の将来像を構築することはそう簡単なことではありません。まだまだ高砂市全体の将来像を構築するには知恵不足であることは否めません。

さてその一方で、この高砂市に住み、働く者として日々の行政施策について「もっとこうあるべきではないか!？」と感ずることが多々あるのも事実です。

今回はこういった行政施策について、市民の声をニーズとして捉え、3月定例議会での一般質問の場で、「4つの提案」という形で改善を要望しました。施策の実現には多くのエネルギーと費用（税金）が必要ですが、そんな中でもそれ程に費用を使わずに、日々実施されている行政施策のほんの少しの改善でその質が向上し、しっかりと市民ニーズに近づき、住む人・働く人の幸福感を高めることが可能であると思っています。

是非皆様も高砂市で生活したり働いたりしている市民として行政施策改善の声を発信して頂きたく、宜しくお願いします。



ブログ「たかお治久の活動報告」のご案内

日々の出来事・思いを掲載しております。
宜しくお願いします。



<鷹尾治久後援会役員>

会長:渡邊登 副会長:荒田修、北野光昭、西本裕行、松谷敏道 幹事:畑中隆禎 会計:谷村英雄 監査:金森和之
平成26年2月4日の役員会にて、役員交代しました。今後とも宜しくお願い致します。

日常お困りの市政相談は、お気軽にお電話ください。連絡所／TEL.079-445-2395 (カネカ労働組合高砂支部内)